

## 新人紹介

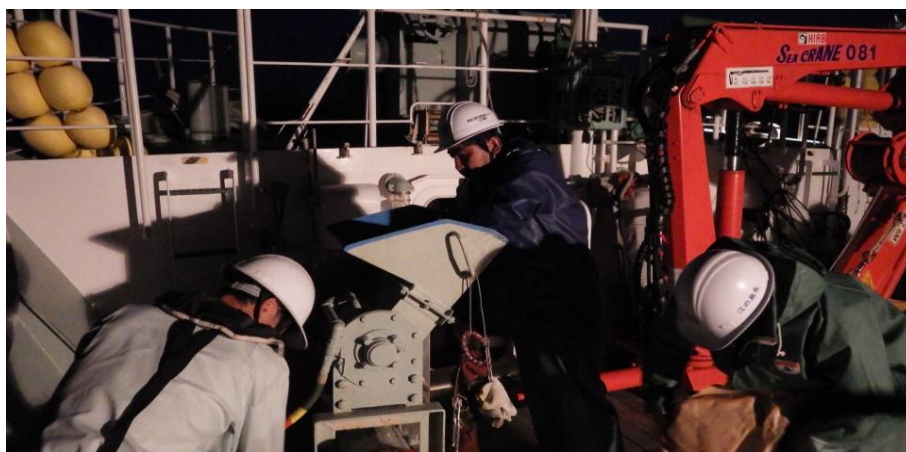
皆様、初めまして。4月1日付けで江の島丸の甲板次長に配属になりました渡辺泰行です。

3月までは小田原市にある水産技術センター相模湾試験場で漁業調査指導船「ほうじょう」の船長を務めていました。「ほうじょう」は、先代の漁業調査船「うしお」が老朽化のため2月下旬で廃船になったのに伴い、3月1日に就航したばかりの新船です。20年以上連れ添った「うしお」の最後を見届けたのを契機に心機一転、江の島丸が新しい職場となりました。



船員3名・19トンの漁業調査船の船長としての業務から、船員14名・105トンの漁業調査指導船の甲板次長として航海当直や甲板作業など様々な業務が担当となり、業務内容は大きく変わりました。

「うしお」や「ほうじょう」と江の島丸との大きな違いは、サバやキンメダイ、ムツ等の試験操業がある所です。



江の島丸は6月までは主にサバの試験操業を行っています。サバの漁場に到着すると、まずは魚群探知機でサバの群れを探します。魚群を見つけたら、集魚灯を点灯するとともに、機械で粉碎した冷凍イワシに海水を混ぜて作ったコマセをまきます。サバの群れが海面近くに浮いてくるまで、ひたすらコマセをまき続けます。



サバの群れが海面近くに現れたらタモ網でサバを掬い取ります。自分は、まだこのタモ網を使う作業に馴れていないので、海面に網を入れる角度やタイミングなどがなかなか掴めません。周りの乗組員は次々と網一杯にサバを掬っており、自分にはその姿は職人技のように見えます。

サバのタモ掬い漁は腕力勝負です。不慣れな自分は翌日はかなりの筋肉痛になり、日常生活における運動不足を痛感いたします。

時化などで沖に出港しない日は漁具の作成やフォークリフトを使用して漁具や船具の倉庫整理なども行っています。4月にフォークリフトの資格を取得したばかりなので若葉マークです。安全第一で取組んでいます。

1日も早く現場作業に馴れるように努力し、漁業者の方々や県民の皆様の期待に応えられるよう頑張っまいますので、よろしくお願い致します。